

# G20エネルギー転換大臣会合

---

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

研究理事 久谷 一郎

# 多様な国の集まり

## G20

インド、インドネシア  
南アフリカ共和国  
ブラジル、アルゼンチン  
欧州連合

## OPECプラス

サウジアラビア、

ロシア

中国

上海協力機構

## OECD / IEA

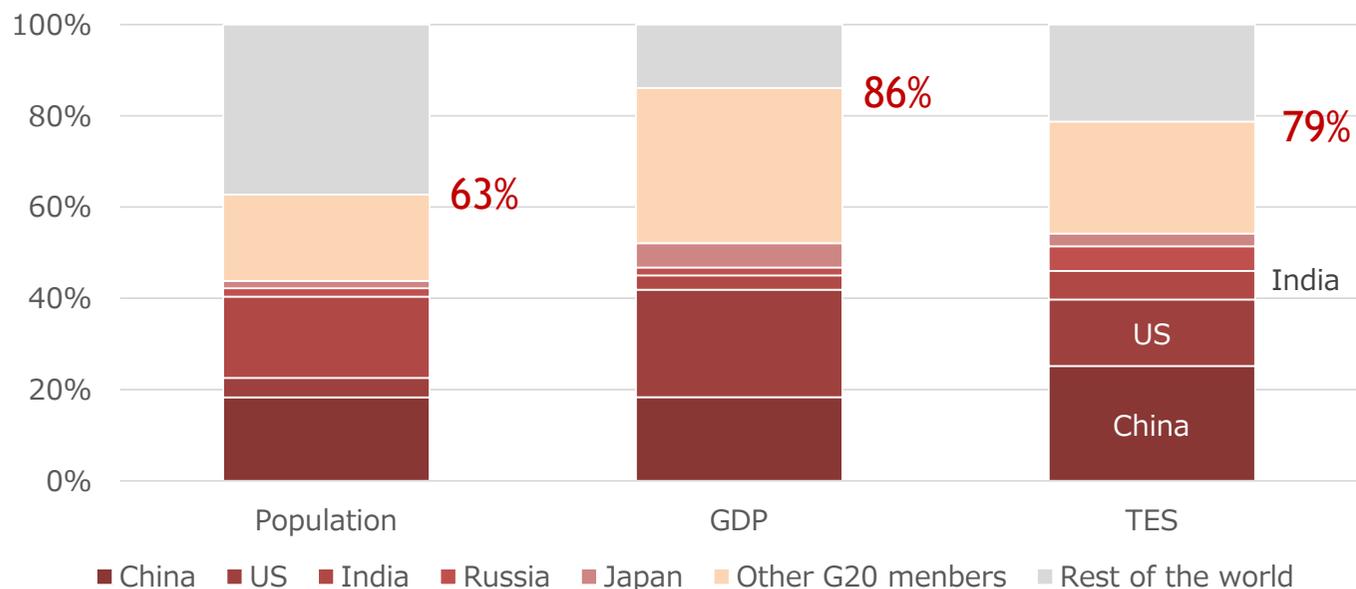
韓国、オーストラリア、トルコ、メキシコ

## G7

カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国

## 参考) G20の経緯と規模

- 1997年のアジア通貨危機の経験から、国際金融システムの議論を行うためにはG7だけでは十分でなく、主要な新興市場国の参加が重要であるとの認識が高まった。
- 1999年6月のG7財務大臣会議において、G20財務大臣・中央銀行総裁会議の創設で合意。1999年12月の第1回以降、毎年開催。
- リーマン・ショックを契機とした経済・金融危機に対処するため、2008年に初の首脳会合開催。

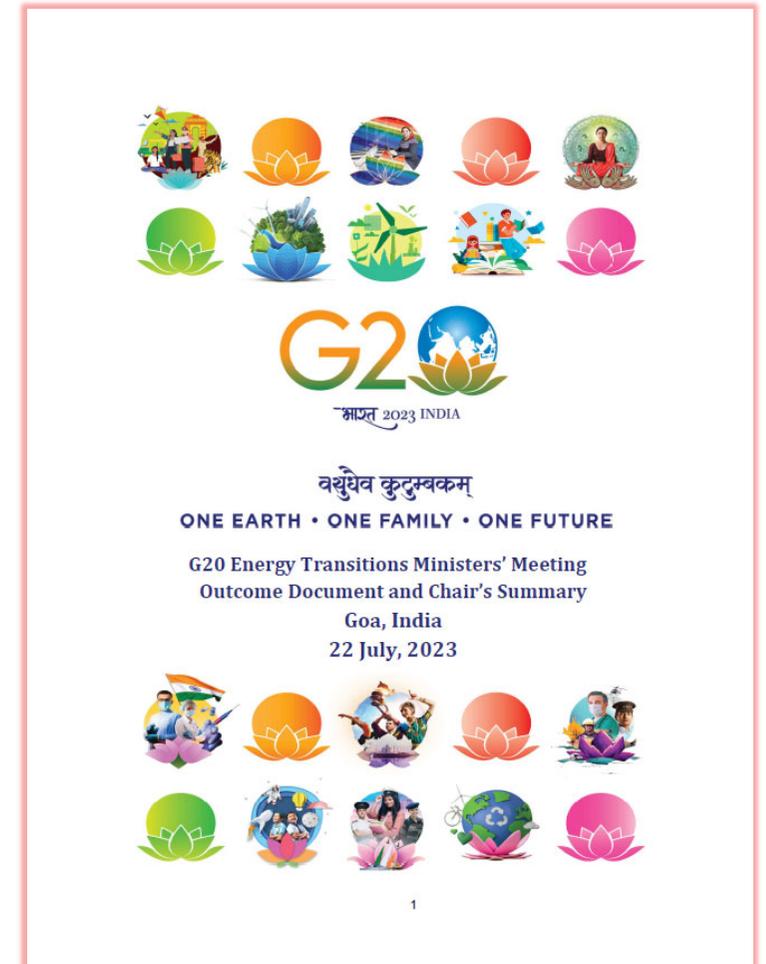


### 世界のなかのG20 (2020年)

TES = 一次エネルギー供給

# エネルギー転換大臣会合

- 2023年7月22日にインド・ゴアでエネルギー転換大臣会合を開催。
- 計29項目からなる成果文章を作成。
  - このうち1-20、および28-29番の項目で各国が合意。
  - 21-27番の7項目は合意に至らず、議長総括として整理。
- キーワードは“One Earth, One Family, One Future”



# どの点で合意をしたのか？

1. エネルギー転換の多様な道筋を確認。  
(#1, 2, 7)
2. エネルギー転換と同時に、エネルギー安全保障、エネルギーへのアクセス、市場安定化、低廉なエネルギー供給を進展させる必要。  
(#2, 3, 6, 7, 13)
3. 気候変動対策では「共通だが差異のある責任」を確認。 (#2)
4. エネルギー転換には（半導体関連を含む）特定の技術や鉱物資源の供給網の維持が必要であること、そのためには各国の主権を尊重しつつも、市場経済の原則国際貿易のルールに従うべき。 (#4)
5. 技術開発とその移転、人材育成の拡大。  
(#4, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18)
  - 次の技術を例示：太陽光、風力、揚水発電、地熱、バイオ燃料を含むバイオエネルギー、ヒートポンプ、CCUS、水電解装置、BECCS、DAC、燃料電池、蓄電池、SMRを含む原子力、水素、アンモニア
  - Green Hydrogen Innovation CenterをInternational Solar Allianceの下に創設。
  - Global Biofuel Allianceを創設。
6. 分野別の取り組み
  - 国際送電接続の強化 (#5)
  - 省エネの強化 (#8, 9)
  - エネルギー多消費産業の脱炭素化 (#10)
7. 資金供給の拡大、低コストな資金へのアクセス  
(#4, 19, 20)

# 見方が分かれたものは何か？

1. 未対策の化石燃料利用の漸減（phase down）と除去技術（CCS）活用の対立。（#24, 25）
2. 先進国による資金供給に関する合意の順守。（#26）  
（於、2009年COP15：2020年までに資金支援を毎年計1,000億ドルに増やす）
3. ロシアによるウクライナ侵攻、エネルギーを威圧的な道具として利用することへの批判。  
（#21、#27）
4. 次の2点も議長総括の扱いとなっているものの、争点は不明。
  - エネルギー価格の安定化に向けて、透明で安定、競争的な国際市場が必要。（#22）
  - エネルギーアクセス向上の手段としての分散型再生可能エネルギーの役割。（#23）

# G7日本やG20インドネシアとの違いは？

	G7気候・エネルギー・環境大臣会合 2023年4月 札幌	G20エネルギー転換大臣会合 2022年9月 バリ
共通点	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー転換の多様な道筋</li> <li>エネルギーの安定供給や価格の安定化の必要性</li> <li>重要鉱物の供給網強靱化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーの安定供給や価格の安定化の必要性</li> <li>重要鉱物の供給網強靱化</li> <li>共通だが差異のある責任の確認</li> <li>エネルギーアクセス</li> <li>グリーン技術の普及拡大</li> <li>資金供給</li> </ul>
相違点	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題（生物多様性、廃プラなど）と気候危機に紙面の多くを割いている。</li> <li>「アクセス」と「低廉性」への言及は極わずか（それぞれ1単語のみ）。</li> <li>バイオ燃料への言及はわずか。</li> <li>石炭火力のフェーズアウトに繰り返し言及。</li> <li>CCUSの必要性を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温上昇抑制目標値を明記。その達成に向けた行動の加速を明記。</li> </ul>